

事象報告シート

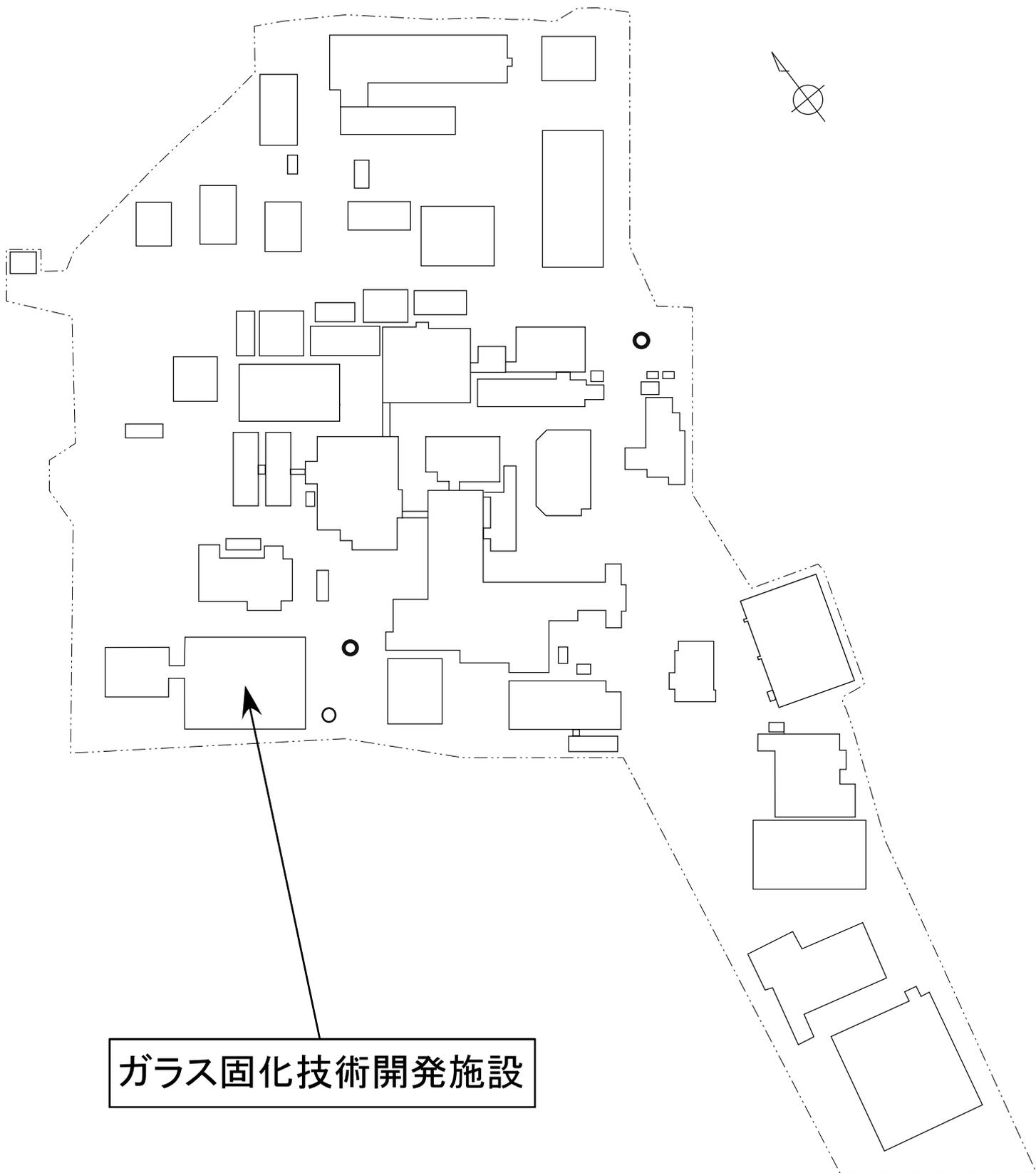
| | | |
|------|---|---|
| 概要説明 | 件名 | ガラス固化技術開発施設におけるガラス流下操作の自動停止 |
| | 発生日時 | 令和元年7月23日 火曜日 21時53分頃、7月24日 水曜日 7時40分頃 |
| | 発生場所 | ガラス固化技術開発施設 固化セル |
| | 事象種類 | <input checked="" type="checkbox"/> 運転管理情報 <input type="checkbox"/> 故障 <input type="checkbox"/> 漏洩 <input type="checkbox"/> 汚染 <input type="checkbox"/> 被ばく <input type="checkbox"/> 人の障害 |
| | 事象概要 | <p>令和元年7月23日21時53分頃、ガラス固化技術開発施設(TVF)において、ガラス流下中に工程制御装置において流下ノズル異常が発報し、流下ノズルを加熱する高周波加熱が自動停止した。流下ノズル加熱装置電源盤を確認した結果、地絡表示ランプが点灯していることを確認した。流下ノズル内のガラスが冷えて固まり、22時04分に流下が安全に停止した。流下停止に伴い、22時10分頃ガラス原料及び廃液の供給を手動で停止した。</p> <p>流下ノズル加熱装置の電源系統の状態確認を行い異常のないこと、流下ノズル加熱コイル及び流下ノズル周辺にガラス片がないことを確認した。その後、固化体容器上部へのガラス片の付着等の有無の確認を行い異常のないことを確認し、24日7時37分頃に流下操作(流下ノズル全段加熱)を再開したところ、7時40分頃に高周波加熱が自動停止した。プロセス系動力分電盤を確認した結果、漏電リレーが作動していることを確認した。</p> <p>なお、従業員及び環境への影響はない。</p> <p>別添資料の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無) 環境への影響 (<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無)</p> |
| 原因 | 原因は流下ノズル加熱コイル給電系統の一時的な漏電によるものと推定。 | |
| 処置対策 | 7時40分頃の流下操作自動停止に伴う流下ノズル加熱装置の電源系統等の状態確認を実施中。 | |
| 連絡区分 | 連絡区分 | <input type="checkbox"/> B情報 <input checked="" type="checkbox"/> C情報 |
| | 判断根拠 | 流下ノズル加熱コイル給電系統の漏電によるガラス流下操作の自動停止は予め想定された事象であり、点検後速やかに復旧できるよう作業手順書として用意していたものである。「通常の保守の管理の範囲で復旧できる故障等ではあるが、運転管理上留意すべきもの」に該当することから「C情報」と判断した。 |

※1) 本シートは、B、C情報専用とする。A情報については、トラブル等通報連絡票(第一報)にて行う。

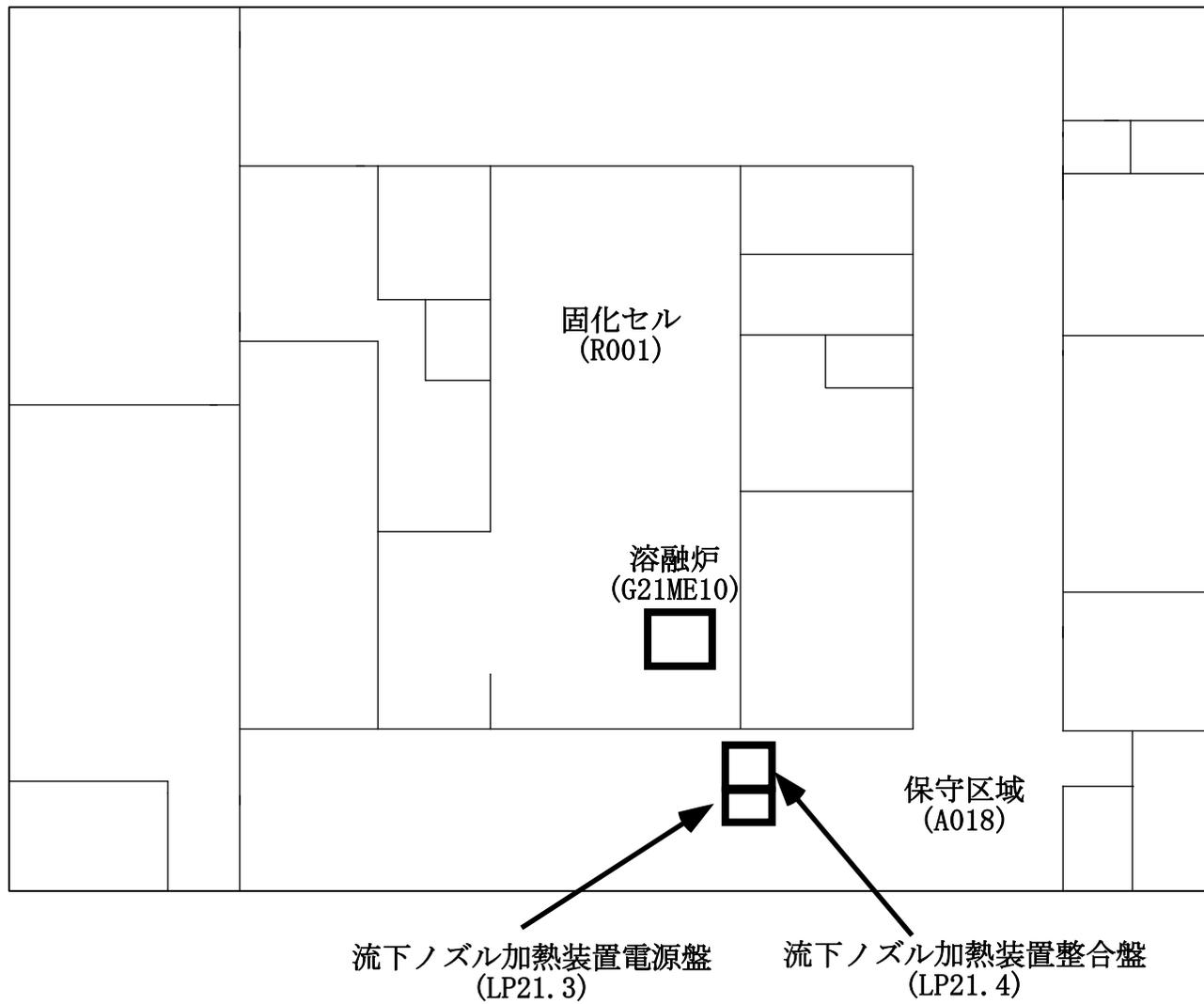
※2) ●「運転管理情報」は原則として保安上問題の無いプラント情報とする。

事故トラブル時の安全上の情報は、以下の内容を「調査中」も含め明記することとする。

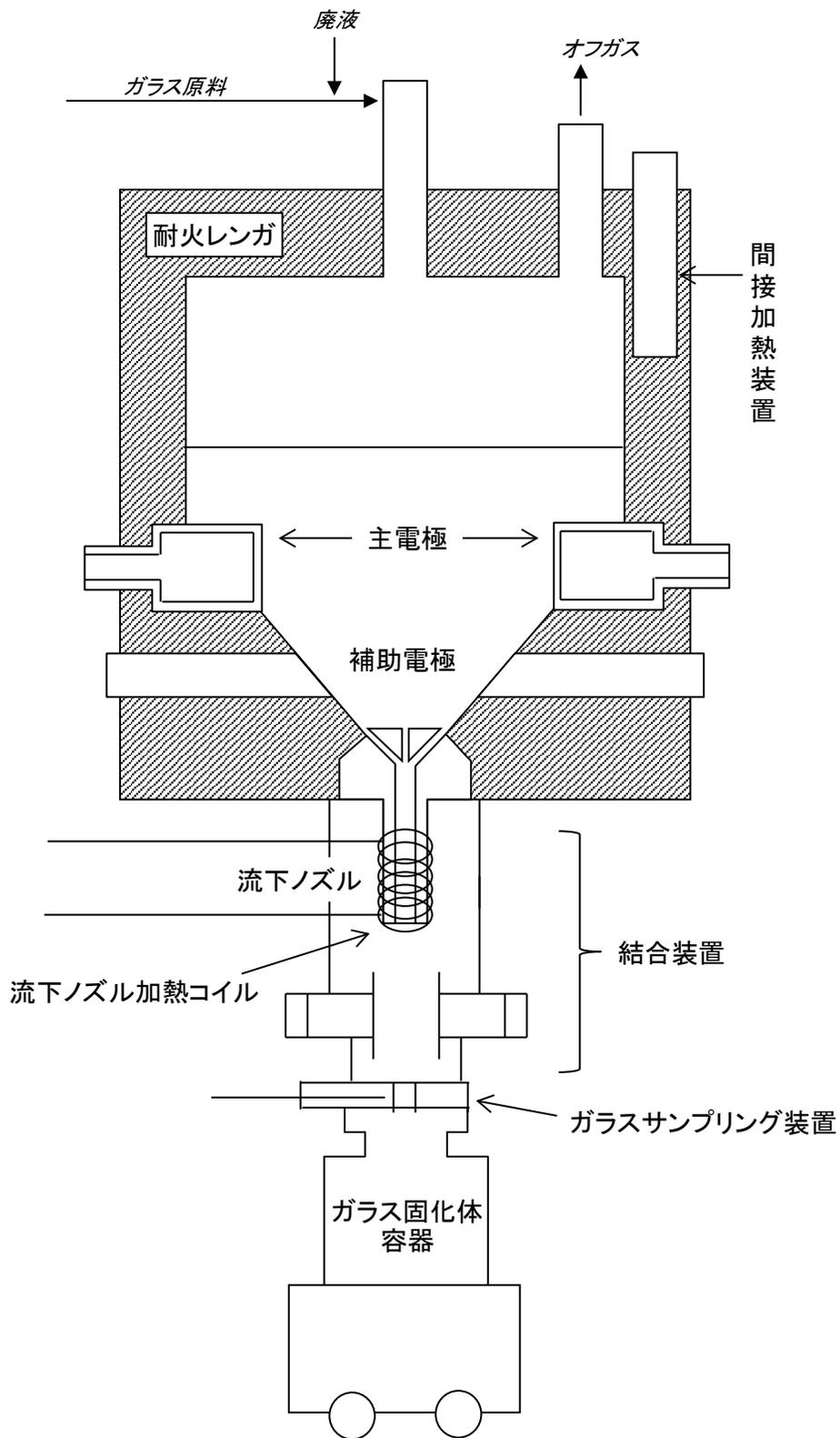
- 「故障」の場合は、安全上重要な機能の有無及びその喪失の有無、事象拡大の可能性(重大事故、漏洩、汚染、被ばく等)。
- 「漏洩」の場合は、漏洩した物質名、漏洩箇所(タンク、配管、継手、ポンプ等)、漏洩量、施設及び環境への影響の有無。
- 「汚染」の場合は、汚染の程度、線源(α 、 β 、 γ 、核種等)、汚染場所及び区域の面積。
- 「被ばく」の場合は、被ばく時の状況(作業内容等)、被ばく箇所(内部、外部、全身、皮膚等)、被ばく量の管理基準に対する程度。
- 「人の障害」の場合は、障害の発生した場所(管理区域、保全区域)、入院加療の有無及び日数。



再処理施設配置図



ガラス固化技術開発施設 地下2階平面図



溶融炉(G21ME10)概略図